

青年部

8月全体会議

～身体を動かしての交流事業(サバイバルゲーム)～



ゲームのために迷彩服に着替えた皆さん

青年部(近藤大樹会長)8月全体会議は、8月24日(木)午後1時30分、交流委員会(永富聡委員長)の担当で「～身体を動かしての交流事業(サバイバルゲーム)～」と題して15名の会員が参加し、ASOBIBA名古屋大須店名古屋大須フィールド(名古屋市中区)で開催しました。

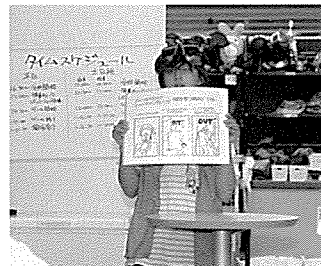
今回の全体会議は日頃のスーツ姿から離れ、ラフなスタイルで非日常的なサバイバルゲームを楽しみ、会員相互の交流・理解を深めるという目的で実施されました。永富委員長の開会の挨拶後、サバイバルゲームに向けて上下の迷彩服に着替え、ゴーグル、マスク、手袋、帽子、スカーフを着用し、一人ひとりにグロック(銃)と弾が支給され、ゲームとはいえ気分が高揚する雰囲気になりました。

その後店舗のスタッフからゲームの進め方、ルール、弾のつめ方、注意点などの説明を受け、グロックの試し撃ちを行い、発射後の弾のスピード感を確認し、目的への照準の定め方等を体得しました。

ゲーム場はフィールドと呼ばれる戦場を模倣したコースが作られ、いくつもの迷路で構成されています。シチュエーションとしては、戦火で崩れた建物や街並のイメージが木材を駆使して再現されており、どこから敵が現れるのかわからない緊張感が、このゲームの楽しさを盛り上げています。またゲームの中核となる司令塔は、全体を見渡せるフィールド内に設置され、参加者は敵、味方の2チームに分



グロック(銃)の撃ち方の練習



店舗のスタッフより説明を受ける。

かれ、フィールドの両端に陣取ったところを確認後、司令塔から参加者へスタートの合図が送られます。その途端、両端のゲートから敵、味方が迷路に飛び込みグロックが発射され、静かだったフィールド内は壁面に弾丸の当たる音が鳴り響き、実践さながらのゲームの迫力が伝わってくるようでした。相手陣地に近づくにつれて、弾に当たった方から「当たりました。」との声上がり、速やかにフィールドから退場していきます。残り少なくなった参加者は、本番さながらに息を抑え壁面に背を付いたり、身をかがめて敵を探す姿はゲームの域を越して、真剣勝負をしているようでした。ゲームの勝敗は、どちらかのチームが全員退場したところで終了となり、最後まで残ったチームが勝利となります。

懇親会ではゲームの戦況に話が興じ、日頃の仕事の疲れを吹き飛ばしてくれるようなラフな企画に感謝の声が上がりました。

